

稿ですが、ISIJ情報ネットワークに投稿希望の記事があれば、協会の編集・業務室に事前に問い合わせることをお勧めします。優しい女性が丁寧に対応してくれる筈です。

2. 『投稿規定』、『執筆要領』はどこに？

毎年、12月号の「ISIJ情報ネットワーク」に掲載されています。より魅力ある「鉄と鋼」誌へ改革が意欲的に進められているため、最新号を見ること。ページ数が変わっていたなどと、後悔しないように。

現場技術報告については、「鉄と鋼」誌各号の現場技術報告見出しの裏面に『投稿規定補足（現場技術報告）』と『執筆要領』が掲載されています。短期間で掲載されますし、論文として再投稿できますので、速報の場として利用できます。

3. 「鉄と鋼」誌と「ISIJ International」誌の選択

「鉄と鋼」誌では「ISIJ International」誌をはじめとして他の刊行物に先に掲載（未来も含め）と判明した時点で査読、印刷準備等の作業は中断され、原稿は返却されます。「鉄と鋼」誌掲載を希望される場合に注意が必要です。

なお、既発表のデータが1/3以下程度であれば新規論文とみなされます。

4. 審査の基準、手順は？ よい論文とは？

本誌に「論文執筆者へのメッセージ」として論文査読者により詳しく説明されています。寄書も論文と同様に審査されます。投稿論文が修正、あるいは返却と判定されて送り返され、不愉快になることのないように、上記「メッセージ」を一読後、投稿することをお勧めします。

現場技術報告は、『投稿規定補足（現場技術報告）』に合致しているか否か審査されますが、誤字、脱字、英訳の誤りは題目を除いて著者の責任となります。後で恥ずかしい思いをしないためには、他の方に事前に目を通して戴くのがよいでしょう。

5. こんな内容ならば「論文」となる！

「投稿規定」及び上記の「メッセージ」を熟読して論文投稿を躊躇された方、自分の記事は論文となるか悩んでおられる方に、とっておきの査読の裏（査読申し合わせ）をお教えします。

以下の内容も論文となります。

- (1) 新しい現象の発見、新しいデータ、測定方法及び装置の開発、理論などを示したものの（例：状態図、活量）
- (2) 製造技術、設備技術、管理技術、製品利用技術などに関し、著者による開発や進歩を記述したもので、十分「考察」のなされたもの

さて、「考察」とはどんなものか補足しておきましょう。難しく言えば、論文の目的に沿ったものであり、かつ、新規性と科学的あるいは技術的価値について論究しているものとなりますが、以下の具体例でよく理解できると思います。

- (1) 結果から得られる一般的・普遍的結論、現象の因果関係の体系化、などの検討。
- (2) 測定データの場合（例：熱力学データ）は、測定精度、従来データとの比較検討、など。
- (3) 解析データの場合（例：FEM）は、解析手法の新規性、解析結果が従来のものと比較して新しい事実であること、などの

検討。

- (4) 分析手法の場合は、測定精度、正確さ、検出限界、定量限界、従来データとの比較、など。
- (5) 技術開発的論文では、問題提起及び解析と解決策、従来技術に対する優位性、あるいは実用上の意義などの理論的検討、など。

この例から、1991年12月以前の投稿規定にあった「技術報告」は、ほんの僅かな追加で現規定の「論文」となることがお分かり戴いたのではないのでしょうか。

6. 「寄書」の活用を！

「寄書」とはレベルの低いものと思われている方々が多いのでは。殆ど投稿されないのが現状です。「鉄と鋼」誌では、前述のように論文と同じ査読を行っており、価値ある記事として取り扱っています。新規性をアピールする場、すなわち新技術の報告、研究速報など小論文の掲載に活用されることをお勧めします。投稿時に速報の必要理由を添付すれば、真剣に検討して戴ける筈です。

7. 「よい論文」の投稿を！

本誌「論文執筆者へのメッセージ」に査読者の方々による“よい論文の書き方”の力作が掲載されていますが、査読でいかに苦勞されているか物語っています。

「よくない論文」は従来のように細部の修正指摘まで行わずに、再投稿（返却）と判定するように審査方針が改革されてきています。「メッセージ」を参考に、「よい論文」の執筆に心掛けて戴くことをお願いして、終わります。（投稿勧誘員 Y. H.）

平成5年第126回秋季講演大会募集案内

（詳細はNo.5をご覧ください。）

- ・申込み締切り 平成5年7月8日（木）
- ・会期・場所 平成5年10月16日（土）～18日（月） 名古屋工業大学
- ・講演申込みにあたって必要な書類（書留にて送付）
 - ①講演申込み書（No.5掲載）
 - ②講演申込み受理通知はがきと連絡用カード（No.5掲載）
 - ③1993年の会員証写し
 - ④講演論文原稿
 - ⑤講演論文原稿写し1通

講演者へのお願い

- ①講演者の変更は事前に事務局へご連絡下さい。代講者は共同研究者の中より会員の方に限ります。
- ②講演者は講演時間帯の20分前までに講演会場に到着願います。
- ③OHPのみの使用とします。